

(公財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第11回)

概要報告

1. 日時 平成27年3月6日(金) 14:00~17:30

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	産業技術総合研究所		阿部 信太郎
	長岡技術科学大学	教授	大塚 悟
	東北大学	准教授	岡田 知己
	東京大学	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷺谷 威
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	株式会社ホームサイスマメータ		堀内 茂木
顧問	東北大学	名誉教授	大竹 政和
事務局	(公財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 平成26年度の活動報告
- (2) 長岡平野西縁断層帯周辺の地盤構造等の検討
- (3) 日本海溝海底地震津波観測網(S-net)プロジェクトの進捗について

4. 委員会の状況

平成26年度の活動報告として①平成26年度報告書（案）の概要，②地震活動状況等について，③GNSS^{※1}観測結果等について説明があったのち，観測データの利用法，大地震時の地盤変状等の幅広い分野における最新の調査研究について話題提供があった。

(1) 平成26年度の活動報告

平成26年度の活動報告が行われた。

- ① 平成26年度報告書（案）の概要が説明され，委員会で確認された。
- ② 本検討で整備した稠密地震観測網（AN-net）の維持管理状況および地震活動状況の説明が行われ，委員会では，トモグラフィ解析結果と震源分布の関係，気象庁による一元化震源との比較等について意見交換が行われた。特に，東北地方太平洋沖地震後に地震活動が低下している地域が認められ，今後調査することとなった。
- ③ GNSS^{※1}観測結果等について，観測網の維持管理状況，データ処理の状況について説明がなされた。委員会では，観測データから評価された歪み速度変化の特徴とその解釈について議論が行われ，より詳細な検討を行うには信頼できる地下構造（下部地殻より深部）の情報が必要であるとの意見があった。

(2) 長岡平野西縁断層帯周辺の地盤構造等の検討

最新の調査研究に関する話題として，地震波干渉法に関する検討内容が紹介された。解析手法の概要及び関東堆積盆地における適用事例の紹介ののち，AN-netの記録を用いた長岡平野西縁断層帯周辺への同手法の適用性について紹介があった。委員会では，本手法の適用には難しい点もあると考えられるが，有望な点もあるため継続して検討を進めることとなった。

(3) 日本海溝海底地震津波観測網（S-net）プロジェクトの進捗について

最新の調査研究に関する話題として，防災科学技術研究所が文部科学省補助金により平成23年度から進めている日本海溝海底地震津波観測網（S-net）の整備状況について紹介があった。委員会では，地震計の設置方法などの観測システム，取得したデータの流通・利用方法及びスケジュールなどの今後の計画に関して活発な意見交換が行われた。

※1：GNSS（Global Navigation Satellite System/全球測位衛星システム）
GPS，GLONASS等の衛星測位システムの総称

以 上